



高松和樹

KAZUKI TAKAMATSU

1978 年 宮城県仙台市出身
2000 年 東北芸術工科大学
美術科洋画コース卒業
2001 年 同校研究生を修了

【おもな展示】

2009 年 個展 / TomuraLee(gallery Tomura) / 東京 ('12, '13, '17, '19, '25)
2010 年 個展 / 「N.E.blood21 高松和樹展」 / リアス・アーク美術館 / 宮城
2013 年 個展 / Corey Helford gallery / ロサンゼルス ('14, '16, '19, '21, '23)
2013 年 個展 / Dorothy Circus Gallery / ローマ / ロンドン ('15, '18, '22, '23)

【おもな受賞】

2011 年 第 48 回宮城県芸術祭 県芸術祭賞
2012 年 第 80 回独立展 80 回記念賞・独立賞
2012 年 宮城県芸術選奨新人賞 (美術洋画部門)

【ステートメント】

高松和樹は、生まれ故郷である仙台市を拠点に 2006 年より現在の作風での活動を開始。
2011 年以降、アメリカ発祥の芸術動向である「ポップ・シュルレアリスム」の文脈において国際的な評価
を獲得し、欧米を中心に活動の場を広げる。高松の作品は、「現代社会における心の距離」を主題としている。
「感情とシステム化された社会」を比喩的に表現する為に「アナログ描画とデジタル技術」を融合させた独自の
制作手法を確立。また、「人と社会との心理的な距離」を比喩的に手前から奥へと続く距離情報を段階的なグ
ラデーションへと変換し、視覚化。そして、この手法を用いて SNS などの匿名の「つぶやき」に挿絵を描き、
生々しい本音や感情をアバターとして描くことで、現代社会に内在する矛盾を探究している。これまでに世界
18 か国 53 都市において 290 回以上の展覧会を開催。作品は、Nike ヨーロッパのプロジェクトビジュアルを
はじめ、書籍装画、アパレル、化粧品、酒類、テレビ CM、グラミー賞ノミネート作品のジャケット、ならび
にフランス盲導犬協会のポスターなど、多様な媒体で採用されている。



小澤香奈子

KANAKO OZAWA

1988 年 千葉県出身
2010 年 東京工芸大学メディア
アート学科卒業
2011 年「アートスタジオ・プティ・プーペ」
にて彫刻モデリングを学ぶ
2013 年 ガンセン漆工房にて、大西長敏氏に師事し、漆芸を学ぶ

【おもな展示】

2018 年 個展 / i art gallery / 台湾・新竹 ('21, '26)
2019 年 アートフェア東京 / TomuraLee ブース / 東京
2025 年 個展「Morninglogiae」 / TomuraLee / 東京
2025 年 Art Fair Philippines / TomuraLee ブース / マニラ ('26)

【ステートメント】

小澤香奈子は、日常の中で時折、姿を現す不思議な空気感を、様々な素材を用いて表現している。
小澤は「幼い頃、様々な気配を身近に感じ、それとともに生活している感覚があった。物理的には
そこにいないものの、人の思いや心から生まれるような気配と、もっと神秘的に近い気配の両方が、
いつも存在していた。気づくと自分自身もその空気の一員になっていることもあった」と語る。
日本古来からあるアニミズム的な感覚の中で、気配を命あるものとして捉えていたのかもしれない。
ふとした瞬間に蘇るあの不思議な空気感を、まるで何かを包むように、大事なものとして表現している。



森村智子

CHISHI MORIMURA

1988 年 東京都出身
2009 年 女子美術短大卒業

【おもな展示】

2018 年 アートフェア東京 / TomuraLee ブース / 東京 ('19, '23, '24)
2024 年 個展「いただく」 / Hwas Gallery / 上海
2025 年 個展「せんひき」 / TomuraLee / 東京
2026 年 Art Fair Philippines / TomuraLee ブース / マニラ ('26)

【ステートメント】

森村智子の作品の表現には、次のような背景がある。大学で版画を学び、木口木版に魅了されて
版画を制作をしていたが、もっと自由に広がる世界を表現したいと絵画に戻り、四角いキャンバスではなく、
木口木版に着想を得て、流木をキャンバスとして制作をはじめた。当初は、埼玉県 of 川岸で流木を収集。
繊細な女性像は、貝殻の粉とアクリル絵画を用いて描いている。

流木をキャンバスとして用いる手法により、流木は森村が女性像を通じて描く物語の代弁者となり、
人間と自然をつなぐ強力な象徴として機能している。森村の作品のモチーフとなる少女たちは、ドレスや
制服を纏い、ぬいぐるみや玩具などのアイテムを身に付け、ガーリーな雰囲気や醸し出しているが、それ
は性別による先入観や固定概念を表している。幼少期からそうした環境や生活の中で感じた違和感をテーマ
に描いている。